

学 校 評 価 実 施 状 況 調

改正学校教育法及び学校教育法施行規則が平成19年12月26日に施行されたことにより、各学校においては、教職員による自己評価を行いその結果を公表することが義務づけられ、併せて保護者その他学校関係者による評価を行いその結果を公表するよう努めるものとされました。

つきましては、各私立学校における学校評価の実施状況等について以下に記入願います。

学校教育法施行規則（抄）

第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定し行うものとする。

第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

[これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に準用されています。]

		学校名	常総学院中学校
令和7年度の状況			
1 学校評価の実施状況		※該当項目にチェック	(未実施の理由)
① 教職員による学校の自己評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
③ 第三者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
2 評価結果の公表状況			
① 保護者、学校評議員等関係者に公表	☒ 実施 ☐ 未実施	学校評議委員会にて公表	
② 広く一般に公表	☒ 実施 ☐ 未実施	ホームページにて公表	
令和8年度の計画			
1 学校評価の実施予定		(未実施の理由)	
① 教職員による学校の自己評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
③ 第三者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
2 評価結果の公表予定			
① 保護者、学校評議員等関係者に公表	☒ 実施 ☐ 未実施		
② 広く一般に公表	☒ 実施 ☐ 未実施		

※ 令和7年度の公表資料、第三者評価における評価者が分かる資料を添付すること。

評価者：学校関係者による評価者：常総学院高等学校同窓会会長

学校法人常総学院評議員

第三者による評価者：西根地区 西根1区

飯田 晃久

有山 武



令和7年度 常総学院中学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	A 十分達成している	・学習面では小テストの継続的な実施により、日々の学習内容を短いスパンで確認することで、理解不足の早期把握と指導改善につながっていると考えられる。今後は、生徒が自らの課題を把握し主体的に学習に取り組めるような指導の充実が期待される。 ・挨拶や時間を守る意識が定着しており、生徒指導が行き届いている様子がうかがえる。今後は、教育目標であるリーダーの育成に向け、社会的マナーの向上や国際協調への意識についても、さらに伸長が期待される。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	A 十分達成している	・各教科において、学習習慣の確立と基礎学力の定着に向けた取組が着実に行われている。英語では、少人数制によるネイティブ教員の授業を取り入れるなど、四技能の習得を目指した指導体制が整備されている。加えて、放課後の外国語教育や、全校での段階的な学びの指標の作成・活用により、主体的な学びの推進が図られていることは高く評価できる。 ・校務分掌では、各分掌間の連携による円滑な校務運営がなされており、その取組は評価できる。今後は、さらなる協力体制の強化と取組の継続が求められる。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している	各教科・校務分掌において、丁寧に現状分析が行われている。学習面においては、知識の定着を図るだけでなく、学び続けようとする姿勢の育成が重要である。生徒が自ら課題を見出し、主体的に学習に取り組む力を身に付けるとともに、学んだ内容を自分の言葉で文章化し、他者に伝える力を養うことが求められる。校務分掌においては、業務の取捨選択と共有を進め、効率化を図りながら、目標達成に向けた一層の取組が期待される。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	A 策定できている	・現状の把握が的確に行われており、改善に向けた取組が計画的に進められている。短期的には、試験後に会議を実施し、課題の整理と改善策の検討が行われている。また、毎年の策定会議を通して、中学校全体の取組の見直しが図られている点は評価できる。今後は、各項目において根拠となる資料や成果を蓄積・共有し、より具体性のある改善策の実施が期待される。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

令和7年度 常総学院中学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	・ICTの効果的な活用による個別最適化された課題設定と、面談を通じたきめ細かな指導が行われている。これらの取組を通して、生徒の資質・能力の育成が図られており、社会のリーダー育成に向けた教育の充実が認められる。 ・生徒指導においては、挨拶や服装の面で規律が保たれており、指導の成果が認められる。今後は、社会的マナーの一層の向上に向けた取組が求められる。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	・小テストの実施により基礎学力の定着が図られている点は評価できる。今後も基礎と応用のバランスを意識し、目標達成に向けた指導の充実が期待される。 ・校務分掌が適切に機能し、役割分担のもと円滑な学校運営が行われている。今後も連携を深め、さらなる充実が期待される。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	Ⓐ 十分把握している	・各教科・校務分掌において、しっかりと現状分析をし、次年度に向けての明確な課題を見つけられている。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	Ⓐ 策定できている	・現状を把握しながら改善策を講じていることがわかる。新年度においては方策を確実に実行し、改善に努めてもらいたい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

令和7年度 常総学院中学校自己評価表

★5段階評価 A:目標が十分達成された B:ある程度の成果が見られた C:取り組んだ D:取り組んだが課題を残した E:取り組まなかった

目指す学校像	『知育・徳育・体育の円満なる人物の育成』との建学の精神に則り、「自主・誠実・創造」を校訓として掲げ、「文武両道」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを輩出することを目標とする。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
国語	基礎学力の定着と応用力の向上。自学自習力の育成を図る。	各学年に応じた教材の選択や精選とわかりやすい授業展開を心がける。	A	ICTを活用した学習指導の充実を図る。生徒からの振り返りの回収を定期的に行い、指導に活かしていく。教科横断等を充実させる。
		基礎学力定着のために、漢字テストや課題プリント等の工夫をする。	A	
		応用・発展力を育成するための適当な教材や課題を精選する。	A	
社会	基礎的な知識を身につけさせ日本人として国際社会で通じる人材の育成を図る。	中1は地理分野を学び、基礎知識の習得や系統学習に取り組ませる。	A	思考・判断の力を育てるために、授業内での問題演習の充実。そのために学びあいを促進。学校行事との連携を行う。
		中2は歴史分野を学び、特に京都・広島で現地調査を行い、研究発表を行う。	A	
		中3は歴史分野の後半と公民分野を学び、NZ研修を通し、国際社会への貢献の仕方について考える。	A	
数学	綿密な授業計画をもとに基礎学力の定着と応用力の向上を目指す。	中1は予習→授業→復習の習慣化と課題提出期限の厳守を徹底する。	A	基礎学力を定着させつつ、応用力も養成する。
		中2は中1同様学習習慣の確立と発展応用力の向上を図る。	A	
		中3は高1の先取学習を行うと同時に全国模試対策の演習授業を充実させる。	A	
理科	自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。	中1は、観察、実験技能の習得と興味関心を育てる。	A	安全対策に配慮した実験・実習の実施 画像、映像教材をを利用した学び 双方向アプリケーションを利用したALの実施
		中2は、科学的な見方や考え方を養う。	A	
		中3は、より深い知識の習得と学習方法を身につける。	A	
保健体育	心と体を鍛え、集団での自己の役割を認識させ、自発的に行動させる。同時に、怪我等の事故防止に努める。また、保健分野の学びを通し、自分の人生を切り開いていく資質・能力を身につける。	様々な種目を通じ、体力、技術を向上させる。同時に集団行動を基本とし、他人を思いやる心を育成。	A	体育分野での個人的技能の向上と保健分野の視聴覚教材のさらなる活用。パワーポイントやデジタル教科書の導入などICTの活用。
		視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。	A	
		ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	A	
芸術	創造力と芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	音楽(合唱団)や美術を通して、感動や作り上げる達成感や豊かな感性を育成する。	A	芸術分野に興味関心を持たせる。芸術に理解のあるグローバルな人材育成。
		中1～中3の3年間を通して授業や文化祭で様々な何かを作り上げる経験させることで創造力を培い、他者の心をも豊かにする表現力を身につけさせ、感性、感受性などを豊かに育てる。	A	
		中2は美術館見学などを通して美術鑑賞を積極的に行い、読み解く力や観察力などを養う。	A	
		自国の文化を国内研修で学び、中3はニュージーランド海外研修を通じ、外国の風景や文化を実体験させる。	A	
英語	基本英単語の定着と会話力、基礎学力の向上を図る。	ネイティブの授業(1クラス3分割少人数制)で英会話力とプレゼン力を鍛える。	A	中学課程の基本内容を定着させ、英語を使って積極的にコミュニケーションをすることが出来る生徒の人数を増やしていく。
		教科書に出てくる英単語を全員が習得するよう、根気よくテストや追試等を行う。	A	
		異なる文化を理解し、グローバルな視点で考える力を養う。	A	
技術家庭	学習を日常生活に生かし、自立に必要な生活技術の向上を図る。	自立に必要な調理と被服、基礎基本を身に付けさせる。	A	ライフイズテック教材を使用し、HTML・CSS・JavaScriptそしてPythonに触れ高校での情報につなげる。コンテストに積極的な参加を促す。
		実験・実習の充実を図り、技術の向上を図る。事故防止のため安全管理に努める。	A	
		双方向性のあるコンテンツのプログラミング・計測制御のプログラミングを通し、問題解決能力を養う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方 策	評価		次年度(学期)への主な課題・改善方策
総務課	学校行事調整と諸調査、学校要覧、公文書管理等。	年間行事計画立案と円滑な実施が可能となるように毎月各分掌と連絡調整を図る。	A	A	年間行事予定等を参照し、3カ月先を意識して行動する。 事務処理や文書処理で正確な作業を行う。 変更が多いので、都度臨機応変に対応し、関連部署と連携して対応し、課内でも周知する。
		茨城県私学振興室関連の諸調査及び回答文書作成を正確かつ迅速に行う。	A		
		学校要覧作成のとりまとめ業務全般を行う。	A		
	表簿類の手配や印刷室の管理、事務用品の管理等を行う。	出席簿、学級日誌、教務手帳、指導要録等の発注手配を教務と連携して行う。	A	A	
		印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。	A		
		筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	A		
	入学式、卒業式等の式典や父母の会総会等の総括を行う。	入学式、進級式等の式典関係の運営をとりまとめる。	A	A	
		父母の会総会の役員及び来賓者への連絡や対応を渉外課と協力してとりまとめる。	A		
		全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	A		
渉外課	父母の会総会や父母の会各支部活動の活性化。	父母の会総会や学級懇談会への保護者の参画を呼びかける。	A	A	円滑な運営方法の検討。 情報の共有、蓄積方法の検討。
		父母の会各支部総会の参画増加のための資料作成や講演内容の検討に努める。	A		
	父母の会役員会や後援会会議等の補助。	父母の会正副会長会議や後援会等の事前準備及び会議運営の補助に努める。	A	A	
		父母の会関連諸会議への協力に努める。	A		
		父母の会及び教職員の懇親会などの準備や手配に協力する。	A		
	父母の会広報活動。	父母の会新聞や父母の会各支部だよりの取材や編集、発行業務を支援する。	A	A	
施設環境課	教育施設全般の管理にあたる。	机、椅子、教卓、教壇、黒板、掲示板などの教室備品の管理と整理を行う。	A	A	学校備品のきちんとした管理、清掃作業の徹底を通して、学校環境の美化・向上に努める。 各教室の机、椅子の交換を速やかに進めていく。
		校内外の清掃活動の徹底と学校環境の整備・美化に努める。	A		
		清掃用具の管理や不足分の調達、その他必要な物品等の購入を検討する。	A		
	省エネ、防災活動の徹底。	年間2回の避難訓練の計画を立案し、実行する。	A	A	
		各種警報装置や防火管理設備の点検を定期的に行い万が一に備える。	A		
		照明器具の省エネに努めると同時にエアコンや加湿器フィルターの清掃を定期的に行う。	A		
	清掃状況確認及び学校見学会、入試関係の諸準備手配。	各教室やトイレ、特別教室などの常日頃から整理整頓を徹底させる。	A	A	
		各教室の机や椅子、その他不具合のある備品の交換や修理を計画的に行う。	A		
		学校見学会、本校入試会場準備の際の清掃の指示及び最終確認作業。	A		
生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り。	学校生活の上で不要な物品の持ち込み禁止。携帯電話持ち込み許可制、校内使用禁止の徹底を図る。	A	A	学校内での生活指導強化の他、学校外での服装・マナーなど、生徒の意識向上を図る。自ら率先して挨拶や声掛けができるように声掛けを実施する。校外、校内での危険回避能力を身に付け、行動できるようにする。
		授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業中私語禁止の指導徹底を図る。	A		
		全員皆勤を目標に毎日学校に登校し、勉強に取り組む姿勢を指導徹底する。	A		
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	父母の会と連携し、各支部単位で祭補導や列車指導、バス指導などを展開する。	A	B	
		制服検討委員会、給食検討委員会、学年検討委員会等で学校との連携を図る。	B		
		父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換会や相談会の実施。	B		
	心の教育の充実。	「あいさつ運動」の展開。	A	A	
社会のルールを守ることや他人への思いやりの大切さを徹底指導する。		A			
消火活動や事故防止活動、その他いわゆる『善行』に対する意識の高揚を促す。		A			

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価		次年度(学期)への主な課題・改善方策
特別活動課	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。	A	A	生徒会主体の活動をさらに充実させ、生徒が円滑に立案・運営をしていけるような流れを作る。
		生徒会予算編成・執行に関する業務を正確・迅速に行えるよう支援する。	A		
		生徒会誌「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを持たせる。	A		
	プロジェクト・諸活動の活性化を図る。	各プロジェクト活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。	A	A	
		諸々の大会・コンテスト等で受賞した際には学校全体で称賛し、本校生徒としてのプライドを共有する。	A		
	新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。	新入生歓迎会で生徒会企画や学年ごとの発表をおこない、本校への帰属意識を高める。	A	A	
		常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し、創意工夫の力を育てる。	A		
		外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	A		
教務課	授業時間の確保に努める。	年休出張等は事前に変更し、突発休は当日授業補填を100%確実に行う。	A	A	適切な学習指導の実施に向けて、教育課程・授業内容(シラバス)検討、見直しを進めていく。また、学習の進度や指導方法について随時確認をする。
		毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。	A		
		生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	A		
	適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	新しい学力観の涵養を目指した中高6力年の教育課程を編成する。	A	A	
		中高6力年(中高一貫コース)のシラバスを編成する。	A		
		生徒の学力に応じた教材とその進度及び深度計画を毎年見直すことに努める。	A		
	教科による研修の充実を図り、授業力の向上に努める。	教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。	A	A	
		自教科のみならず、様々な教科の授業を自由に見学し、授業方法の改善をこころがける機会を与える。	A		
学習指導課	教員の研修体制の確立(校内ICTの活用とAL型授業の普及など)	教員に対して、外部の研修への参加案内を行ったり、報告内容を共有したりするなど研修体制を整える。	A	B	各種試験の成績の分析を通じ、教科毎に取り組み計画を作成しやすくなるようシステムを構築していく。 校内ICTの活用を効果的に推進し、個別最適化に努め、よりよい学習体制を構築する。
		教員研修会を定期的に実施し、教員が研修できる環境を提供する。	B		
	主体的な学習習慣を確立させ、自立した学びによる学力向上を図る。	授業が大切であることを認識させるために、的確な学習法を発信、指導する。	B	A	
		学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。	A		
		学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、結果の分析の支援を通じ学力向上につなげる。	A		
		年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。	A		
	放課後や夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	夏期休業期間中の前期、後期の特講授業や補習授業の各学年間の調整を行う。	A	A	
		夏休み中の各学年行事や野球応援などに臨機応変に対応できる体制を整える。	A		
		新入生のための指導計画を立案。	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。		
	図書館課	読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。	A	
生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。			A		
文系・理系のジャンルで生徒が選択しやすいように本の配置を工夫する。			A		
朝及び昼の図書館を利用した本の貸し出しを目指す。		朝8:10分より8:25分まで及び昼13:15より13:30までの本の貸し出しとする。	A	B	
		図書館内の読書では私語を一切禁じ、黙々と集中する態度を育成する。	B		
		学習上、図書館の本を多く貸し出しすることに努める。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題・改善方策
進路指導課	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。	A	B	進路指導部主体での行事を進化させ、学年ごとに必要な指導をシステムとして機能させる。行事や講演と進路指導の相乗効果を期待し、6か年を意識したシステム化を進めていく。
		将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。	B		
		探究学習を行い、生徒間で共通理解を図る。	A		
	進路情報の生徒・保護者への提供に努める。	生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三者面談時に配布する。	B	B	
		父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。	A		
情報処理課 情報システム課	個人情報保護法遵守と校内の情報処理の推進役を果たす。	校内LAN、インターネット環境の保守管理に努める。	A	A	電子黒板や生徒用PCの修理やメンテナンスの手順を改訂し、よりスムーズな管理運営を行う。Teams、クラウドを用いた教員間の情報共有が活発化していることから、校内セキュリティポリシーの徹底、講習会の実施を継続し、教員の情報リテラシーの向上を図っていく。
		学校関連のデータや個人情報の機密保持に細心の注意を払う。	A		
		個人情報保護の法的知識やデータの扱い方等について周知徹底を図る。	B		
		教職員の意見に耳を傾け、使いやすいOA環境を構築する。	A		
	定期試験成績処理システムの運用を円滑に行う。	A			
	生徒検索システム、電子カルテ、インターネット利用記録等のシステムの運用を図る。	A			
	模試の過去問をLAN上に公開し大学入試対策の利用に役立てる。	A			
	入試業務及び在校生の個人情報管理。	入学試験受験者名簿の作成や事務手続きに必要な個人情報を取りまとめる。	A	B	
		新入生及び在校生の住所や連絡先などの個人情報を一括して管理する。	A		
進路指導課や同意会と連携し大学進学先や現住所の把握に努める。		B			
入試広報課	学校教育活動のアピールと入試制度の周知徹底	グローバル教育の取り組みや生徒たちの様子を紹介する(特にCEやデュアルディプロマ)。	A	B	訪問塾やエリアの見直しを行い、単願者の獲得はもちろん、第1志望校の入試に近い形式を選択してもらえるよう、学習塾との連携をさらに強化していく。また、English Summer Lessonのような特化したイベントや合格者対象説明会を実施することで、本校に足を運んでもらい、生徒の様子や教育環境を見て知っていただく機会を作る。さらに、進学先の選択肢にあげてもらえるよう、塾での説明会開催を依頼する。
		キャリア教育(探究フィールド活動・リーダーシッププログラム)の取り組みや生徒たちの様子を紹介する。	B		
		プロジェクト活動や今年度より始まった選べる学びの時間の取り組みや生徒たちの様子を紹介する。	A		
		ホームページやSNSの充実を図り、学校生活の様子や入試情報をスピーディーに更新する。	A	B	
		模試成績や検定試験の結果・入学時の成績と合格大学を明示し、成績の伸びと他校との差を紹介する。	A		
		入試ごとの特徴を紹介し、単願者とともに併願者の獲得にも努める。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
中学1年	「できるを増やす種を蒔く―万事に向き合う―」を学年目標に、あらゆることに積極的に行動していくことを促した。	学習習慣と生活習慣・三点固定を確立すべく、手帳にてスケジュール管理をする。	B	学習面でも生活面でも基本的な習慣を指導する1年間であった。こちらから活動を促すことが多かったため、次年度からは、まず自分から動いていくことをめざして、その環境づくりを行っていく。
		学年集会を定期的に開催し、学年生徒全体の共通理解を図る。	A	
		職員間で生徒の様子を細かく共通理解し、個に応じた指導を心がける。	A	
		学校と家庭の連携を重視するため、連絡を密にして共通理解を図る。	A	
		基礎的基本的な知識の定着を目指し、授業中心の学習を確立すべく、学年教師で評価を共有する。	A	
		基礎学力向上の基礎としてClassiを用いての学習時間の入力や振り返り作文の実施を行う。	B	
中学2年	「Let's Start!」主役の覚悟」をスローガンに、失敗・挫折・悩みを人生の宝ととらえ、それらを乗り越えて、自分を軸を作ること目標とした。	学習習慣と生活習慣・三点固定を確立すべく、手帳にてスケジュール管理をする。	A	2年生になっても、一定の落ち着きがある。取り組みにおいては、差が出てきてはいるが、ボトム層の数は少ない。逆にトップ層が多い。今後は、いかにボトム層を引き上げられるかということ、中位層を上位層に持つてこれるかが課題。ボトム層はまず取り組む習慣をつけるように、マイチャレノートの提出をやらせたい。中位層は、小テストへの取り組みとその直しをしっかりと提出できるように指導したい。
		学年集会を定期的に開催し、学年生徒職員全体の共通理解を図る。	A	
		習熟度に合わせた学習の仕方や学習の内容を考えさせ、自らの課題を見つけ解決していこうとする姿勢を培う。	A	
		学校と家庭の連携を重視するため、連絡を密にして共通理解を図る。	A	
		基礎的基本的な知識の定着を目指し、授業中心の学習を確立すべく、学年教師で評価を共有する。	A	
		基礎学力向上の基礎としてメモ力を養うべく、手帳記入や振り返り作文の実施を行う。	B	
中学3年	「Self Control!」をスローガンに、自立(自律)を心掛け、高校生になるための準備を一人一人ができるように、主体的に活動する。	ClassiとGoogle Classroomを手帳とともに活用して、学習習慣の管理と、規則正しい生活習慣を身につける。	B	主体的に行動する様子が各所で見られた。学校行事や課外活動を通して協調性や達成感を得られた。今後は、その学びを学習面に生かして行くことが今後の課題である。前向きな姿勢を学習習慣につなげ「見通しを持った学習」ができるよう手帳活用を継続する。
		学年集会を定期的に開催し、学年生徒職員全体の共通理解を図る。	A	
		習熟度に合わせた学習の仕方や学習の内容を考えさせ、自らの課題を見つけ解決していこうとする姿勢を培う。	A	
		学校と家庭の連携を重視するため、連絡を密にして共通理解を図る。	A	
		基礎的基本的な知識の定着を目指し、授業中心の学習を確立すべく、学年教師で評価を共有する。	A	
		授業でICTを活用することによって、効率よく深い学びの定着を図る。	A	